

キリスト者の必修科目

新約聖書にはマタイによる福音書から始まって4つの福音書と使徒言行録、それからローマの信徒への手紙からユダの手紙まで21通の手紙、最後にヨハネによる黙示録と、合計27の文書が収められています。ざっと分けてしまえば、イエスさまがわたしたちのために何をしてくださったか、どんなことを語られたか、十字架と復活に焦点をあてて書かれたのが福音書です。ここからイエス様の教えと業を通して、くりかえし、イエスがキリストであること、わたしの救い主であり、裁き主であり、贖い主であることを確認すること、そしてこの方を通して父なる神の御心を知らされるのが大切です。すべての賛美と感謝の源はイエス・キリストを直接に指し示す福音書であることは間違いありません。つづく使徒言行録は、イエス様が天に昇られた後、地上に残った弟子たちに聖霊が降り、教会が誕生してゆく様子、そして迫害にも負けずにイエスの弟子たち、使徒と呼ばれますが、彼らがエルサレムから始まってサマリヤをへて地の果てまでわたしの証人となるとの約束の言葉通り、地中海各地のギリシア・ローマの植民都市に伝道をしていったさまが語られます。ここでの主役は、前半はペテロ、途中から、とくに福音が海峡をわたって、ギリシアに、すなわちヨーロッパに入ってからパウロが大活躍します。そしてこのパウロがしたためたローマの信徒への手紙、コリントの信徒への手紙など、当時、誕生しつつあったキリストの教会に、さまざまな教え、異教社会のなかで召され、聖なる者とされたキリスト者としてどう生きるか。キリストの弟子の生き方とはどのようなものか、偶像礼拝が当たり前の中、真の神を信じて生きるその新しい群れの生活様式をパウロや、ヨハネや、ペテロたちは各

地の教会に書き送りました。これらの手紙はコピーされ、回覧板のように周囲の教会で読み上げられるのが常でした。今日のコロサイの信徒への手紙もそうしたもののひとつです。

ただいつも思うのですが、たとえば伝道礼拝とか、学校で説教を頼まれたときなど、こうした手紙、書簡からは説教がしにくい。それはこれらの手紙はキリストと出会い、救われたことを前提として、新しい生き方、神の子とされた者たちの存在の作法が説かれる部分があるからです。神に愛されている自分であることを、キリスト・イエスを通して知ることがすべての出発点です。自分を受け入れることも、他人を赦すこともここからしか始まらないことを救われた者たちは知っています。福音があって、律法がある。神に愛されているから、神を愛し隣人を愛する者となるよう、新しい生き方を身につけることが願われているのです。だからいきなり手紙から説き起こすよりは、福音書からキリストを紹介することに重点を置くことが多い。神の愛に出会ってほしいからです。ただわたしは先輩牧師から、福音書からばかり説教しては教会がたたないよとアドバイスされたことがあり、これはたしかにその通りだと思わされまして書簡にも真剣に取り組むようになりました。新しい共同体、神の家族である教会を、この半田の地でどのように立ち上げるかを手紙に問うようになりました。たとえばですが、昨年やりましたフィリピの信徒への手紙から聴いていたときに、あの手紙を代表する聖句として「わたしたちの国籍は天にあります。」という御言葉がありますね。教会の墓石に刻まれていることもよくありますが、この頃、この御言葉のもつ意味をさまざまに考えさせられています。ひとつはわたしたちが天に国籍をもつに至ったのは、今朝読みましたコロサイの信徒への手紙に従えば、神に選ばれ、聖なる者とされ、愛されているからですが、

その具体的表れとして、わたしたちは神さまがわたしのために送って下さった独り子イエスを、わたしの主として受け入れたのです。このことは同時にわたしが信仰によって罪人であることを神の前に認めたことでもあります。わたしには助けが必要であり、神がわたしの罪のための贖いの供え物として御子を十字架にかけられた。その神の真実を受け入れることによって、わたしは、わたしの救い主を得ました。そのことをわたしは感謝をもって告白し、洗礼を受けてキリストに結ばれた。洗礼とはそのような式です。人は心に信じて義とされ、口で告白して救われるとあります。その洗礼という恵みの出来事によって、わたしは天に国籍を得たことになります。すると、こういうことになるのではないか。天に国籍を得たわたしは二重国籍を持つということはありませんので、この世に対しては死んだものとなった。この世に対して死に、天に生きる者とされた。通常、死がこの世の終わりであると皆考えていますが、十字架と復活の御業によって、キリスト者にとって死は終わりではなく、新しい命への誕生、すなわち眠りに変えられている。もっと広い世界への始まりの日が死です。それを知らされたことによって、この地上での生き方も変わる。この世界で完結しない。帳尻をあわせることを考えない。フィリピの言う「わたしたちの国籍は天にあります」という新しい市民権を得たことによって、この世に対して、キリストに結ばれて古い自分を十字架で滅ぼしたわたしたちは今度は神とキリストから聖霊を頂いて、新しい国籍、天の国籍を得たにふさわしい品性を身につけることを願われている。古い時代が争いと憎しみによる支配が幅を効かせているのであれば、キリストの指し示した新しい時代は赦しと愛がもたらす共同体のなかの調和と一致。それこそが神の国の実体でしょう。わたしたちはキリストの十字架による罪の赦し

を得て、地上にありながら天に国籍を得た者として生きる。つまり、この地上においては国籍を失い、寄留者、宿り人となって生きることが、わたしたちキリスト者の本質となった。それゆえに、ここでコロサイが勧めるキリスト者の徳目を身につけることが勧められるのです。これはあくまで神が先にわたしを愛してくださり、御子を送ってくださったがゆえに可能となった新しいステージの生き方です。「あなたがたは神に選ばれ、聖なる者とされ、愛されているのですから」、そうやってキリストと出会わせて頂き、いま結ばれているのですから、「憐れみの心、慈愛、謙遜、柔和、寛容を身に着けなさい。」そう願われるのです。これは招きです。すでにわたしはあなたがたに恵みを与えているよ、できるよ、やってご覧と招かれている。その真似びのお手本はキリスト・イエスです。主がわたしのために何を忍び、何に怒り、何を喜ばれたか、それは創造主である神の御心をはっきりと指し示すものでした。神は律法や預言の書という紙に書かれた文字ではなく、ご自身の愛する独り子、イエス・キリストの生きざまとお言葉によって、はっきりとわたしたちに語られました。「互いに忍びあい、責めるべきところがあっても、赦し合いなさい。主があなたがたを赦して下さったように、あなたがたも同じようにしなさい」と招かれるのです。わたしはいま「招かれている」と語りました。わたしは聖書に書かれている。「～しなさい」という命令形はすべて神の招きの言葉だと理解しています。なぜなら、それを成し遂げるために必要なものを神は必ず先に下さっているからです。また求める者に聖霊を送ってくださることを約束しておられます。わたしたちは自分の恣に生きることを自由と考えている節があって、それが妨げられることを極端に嫌います。誰にも命令されたくないと思っている。だから聖書に「～しなさい」とあるとカチンと来

るのですが、しかし、そうやって恣に振る舞うことによって自分も他人も傷つけることが殆どではないでしょうか。その時のわたしは自分の中に救う罪の奴隷、欲望の奴隷になっているのであり、その行きつく先は破滅です。傲慢、貪欲、好色、妬み、怒り、無関心、それらはキリスト・イエスには見られず、この世に満ちあふれているものです。そうした世から、わたしたちは神に選ばれ、聖なる者として、取り分けられた。それは神の御心を現して、救いがどこにあるかを指し示し、神を褒め称えて生きるためであります。だから、礼拝をし、神を崇め、キリストの言葉に聴きます。そして、この半田教会という具体的なキリストを頭とする教会を生きることによって、新しい共同体をつくる。そこには赦しがあり、慰めがあり、励ましがある。この世からは聴くことの出来ない天来の消息によって生かされる群れが誕生することを、神は願われている。そういう壮大はチャレンジに、わたしたちは招かれていることを弁えたいのです。

ちなみに今日読みましたこのコロサイの信徒への手紙 3 章 12 節以下は教会の聖書日課ではクリスマスの次の週に読まれることになっています。神がイエス・キリストという最大のプレゼントをわたしたちに下さった。飼い葉桶に、わたしのための救い主がお生まれになった。神ともにいます、インマヌエルの預言がここに成就した。この疑い得ない神の恩寵、赦しの愛を受けて、だからあなたがたも新しい段階に進みなさいと招く。そのように聖書日課が組まれていることは意義深いですね。神がすでに愛を示しておられるのだから、互いに赦し合うことを学び、そしてこれら全てに加えて愛を身につけなさい。愛はすべてを完成させる絆ですと言われるのです。これはわたしのなかから出てくる愛ではありません。独り子を送られた神の愛を、

つまり、キリストを身につける。わたしたちの身に帯びるので
す。わたしの思いではなく、御言葉に聴き、イエスのなしたこ
とを思い、そこにわたしたちの判断を、自分を委ねることを通
して、事柄を神の手に委ねてゆく。そこに神の働く場所を与え
ていくことが調和と一致をあらわす道につながるのです。キレ
ることが当たり前となってしまったこの世にあって、決して切
れないキリストの愛のうちにとどまって赦し合うこと、仕え合
うことを学び合いながら歩む教会生活に、神の御心が示されて
ゆく。先週、わたしたちは教会総会を3年ぶりに開いて、神さ
まの恵みに応える今年度の計画と予算を決めました。すべての
働きは、キリストを指し示し、神の愛のうちにあって、わたし
たちの歩みを天に国籍を持つ者として整えていくこと。赦され
いるから赦す者へ、愛されているからそのような愛を身につけ
る者となることを志ざし、そこに身を置いて共に生きること、
祈ること、何よりも神を喜ぶこと、今年度も礼拝を通して、神
の恵みを分かち合い、御国を目指す歩みをともに続けてゆきた
く願っています。

お祈りいたします。